

雪中活動

そり遊び・チューブ滑り

6

1 活動のねらい

そりやスノーチューブに乗って、ゲレンデを滑り、冬の自然に親しみます。

2 育てたい能力

B2 自然への関心

A2 積極性

A4 交友・協調

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

- ・すりばち広場
- ・冒険広場

4 活動時期

1 2月～2月 積雪時

5 所要時間

1時間～2時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

- ・活動に適した服装
- ・帽子
- ・手袋
- ・ゴーグル

※そり等の道具を持参していただいても結構です。

【自然の家で貸し出しできるもの】

- ・そり
- ・チューブ
- ・ヘルメット（推奨）

※滑走する場所および天候によっては、ヘルメットをニット帽に代えて実施することができます。

8 活動の手順

(1) 事前

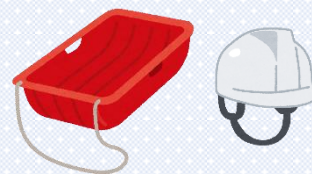
- ①自然の家職員と打ち合わせを行い、実地踏査で現地の状況を把握した上で計画を立てます。
- ②積雪状況等により、かなりスピードが出る場合があるので、引率者はどの程度滑るのか事前に確認をします。
- ③安全に活動するため、**活動に適した服装・ヘルメットの着用についての事前指導**を行います。自然の家職員の**セーフティーク**を受けてから実施してください。

(2) 活動

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



②用具を準備します。



③注意点等について説明します。
※「参考」をご覧ください。



④安全を確認しながら、順番に斜面を滑り降ります。



⑤後片付けをします。
※必ず引率者が立ち会ってください。

⑧自然の家事務室に活動終了の報告をし、借用物品を返却します。
(破損等があればご連絡ください。)

9 留意点

- 衝突事故防止のため、**登る場所**と**滑る場所**を確認し、利用者全員に伝えてください。おとなが試しに滑走し、雪の状態を確認してから活動を開始してください。
- **立ち乗り、背面乗り、2人以上の乗車はしないでください。**
- **2列同時スタートや連続スタートは、接触や衝突事故につながります**ので、間隔をあけて滑走するように指導してください。
- 複数の団体が道具を使いますので、**道具を独占しないでください。**
- 健康観察、準備運動を十分に行ってください。
- こまめに服の着脱を行い、体温を調整してください。
- 前に滑り降りた人がコース外へ移動してから次の人が滑るようにしてください。
- 左右の間隔も十分にとって接触しないように注意してください。
- **コース上に、ゆきだるまや雪像を設置しないでください。**
- 健康観察、準備運動を十分に行ってください。
- こまめに服の着脱を行い、体温を調整してください。
- 気温や天候等で雪の状態が変化します。十分注意してください。
- 活動に使用した道具は、責任をもって返却してください。
- 活動終了後に、かならず**点呼**をとり、**人数の確認**を行ってください。

そり・スノーチューブの注意点



そりは冬の代表的な乗り物で、小さな子どもたちでも気軽に遊ぶことができます。

スノーチューブとは、空気でふくらませたドーナツ状のそりの一種で、スピードが速く、横回転するため、普通のそりとは違ったスリルや爽快感が楽しめる乗り物です。

どちらも楽しい乗り物ですが、使い方を間違えると大きな事故につながります。

正しい使い方、安全に遊びましょう！

注意 1

安全のため、必ずヘルメットを着用してください。ヘルメットはピロティ奥のヘルメット置き場にあります。

注意 2

雪の滑り具合は常に変化します。まずは低い位置(下図S1)から試し、滑り具合を確認しながら、滑り始めの高さを調整して活動してください。

注意 3

滑るエリアと登るエリアをはっきり区切って、滑る人と登る人がぶつからないように活動してください。

注意 4

滑る時には、自分が滑ろうとしている方向に人がいないかを確認し、誰かいれば声をかけて、その人がコース外へ移動するまで待ちます。



② 滑り始めラインの限界

① 最初の滑り始めライン

③ 滑り終わり

※※※ スタートやゴールの場所には、必ず指導者を配置してください。 ※※※